

上智大学

二〇二一年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用型)

学部学科試験サンプル問題

文学部 国文学科

【学部学科試験名】 現代文・古文・漢文の読解力を問う試験

【試験時間】 七五分

【出題の意図、求める力等】

本学科では、国文学・国語学・漢文学を有機的に関連させ、人間・社会・文化の本質を問う視点を養うことを目標とし、特に古典学を教育・研究の基盤に置いている。上記の目標に到達するための基盤となる教育を受けるために必要な学力が備わっているかどうかを学部学科試験で判断する。そのため現代文、古文、漢文の基礎的な学力を問うとともに、読解力・思考力・表現力をも問う試験問題を課す。

また、これまですでに記述式問題を含む独自の学科試験を行ってきた。したがって、2021年度に実施する学部学科試験も出題傾向はこれまでと同様である。現代文の出題によって主に基本的な読解力・思考力・表現力を測る。古文や漢文では、こうした能力を判断することに加え、基本的な文法事項や文章構造の理解など読解に必須の知識をも問う。また、三つの分野のいずれにおいても文学史的な知識や漢字・語句に関する知識など、国文学を学ぶために必要な基礎的な事項も問うて行く。

※サンプル問題の出題形式は例であり、設問数は本試験と異なる場合があります。

一 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

私は二十の頃から、おのずと文学を二分して考えていたらしい。西欧の文学と日本の近代文学とに。西欧の文学には、悪の光景があった。私にしてみれば、悪の光景を描くことが、芸術というものであった。したがって悪は、^Aカンケンすれば、美のことであった。

これに反して、日本の近代文学は、日常や社会の上で生きる人の姿を探究するものであった。いわば、人間いかに生きるべきかの解説書であり、人生の真相鏡にかけて見るがごとの報告書であった。

それはそれでよかった。私は日本近代文学の¹この努力を尊敬する。この努力は一つの理想に奉仕していた。あれでもなくこれでもなく、今日たゞいま現実に生きている日本人の生の感受性の中に、ただそれだけを材料に、一つのモラル²（ああ、カタカナ語！）を発見すること。一民族の真剣な試みといつてよろしい。……しかし、そこには悪の光景がなかった。

私はここで、あらゆる生の行為がその上にスケッチされるべき、一つの石盤に突き当たる。

石盤とは、普通の人間の生のことだ。われわれが日本人として持っているこの石盤の上には、いかなるモラルが描かれているのか。なるほど、忠孝・義理・人情、いろんな描線が描かれている。しかし、その絡まり合う描線の奥にあって、^Bカクシンであるような、そしてごく自然に日常の中で感受されるモラルとは何か。

——恙^{つがな}無く日々を生きつつ長生きすること。

こういうものではないかと思っている。私もずいぶん長く生きてきて折り折りに考えてみたが、どうもこれ以上のものが見当たらぬ。これがわれわれの抱く原基としてのモラルではあるまいか、と私は思う。

しかし、³もしそうだとすれば、これは厄介なことになる。なぜなら、ここには悪の感覚がないからだ。

善と悪というとき、善の方は分かり易い。良い人間であろうとするときの、良い行為、良い生き方、それは分かり易い。それらは、自分が現に生きていること、自分がここに存在すること、から出発するからである。現実と存在が、善の根^{こんてい}抵だ。そこから発して考えられる⁴「二」が四のようなものだ。

現実と存在から発して現実と存在の中の道を歩く。人の生はすべてそれで足りているはずである。

しかし、すると悪はどうなるのか。悪はすべてこれとは反対でなければならぬ。悪とは何か。そして悪は何^{どこ}処にあるのか。すると、私はたった一つの入り口しか見当たらない。

——悪とは、此^{こゝ}処から（現実と存在から）離れようとする意思である、と。

いわば、⁵石盤の無視と否定である。私は哲学の言葉が嫌いだ。上手くも使えぬ。しかしいまはちょっと借りよう。つまりこうしてわれわれの内部に「在らぬもの」が出現するのではあるまいか。

在らぬものを思う、そして、在らぬものへの思いによって自分の現実や存在を變形する。これが悪の光景ではあるまいか。

人間の存在の独得さは、在らぬものが（存在と等しく）生存のもう一つの発条ばねになっていることだ。在らぬものへの意思があるから、われわれは頭を高く掲げて歩くのだ。

善は存在に満ち足りている。それは存在から存在への道を行く。しかし、われわれは贅沢ぜいたくなもので、まあなんというのか、存在に飽き足りてしまうことがある。そういうときわれわれの内部に、在らぬものへの意思が生じ、此処から、存在から、一步離れようとする。これが悪の出発だ。

したがって、悪は、われわれの生の根本の動因の一つである。

したがって、悪は、在らぬものへの意思によつて出発するのであるから、美でなければならぬ。

むろん、この悪と美の關係は論理的なものではない。私は上手く説明できない。ごく簡単な理解のために、ボードレールのこんな言い方を引用しておく。

「簡素さが美しさを美しくする——ということは結局、次の真理とひとしくなるが、これは、まったく思いもかけぬ種類の真理ではある——ない物が存在するものを美しくする」（『現代生活の画家』阿部良雄訳）

この、「ない物ないものが存在するものを美しくする」というのが、悪の光景である。

（秋山駿『人生の検証』）

〈注〉ボードレール：一八二一〜一八六七。フランスの詩人。

問一 傍線部1「この努力」とは、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 芸術として悪の光景を描くこと。
- b 生活者としての人間のありようを探り求めること。
- c 人生の極意を伝授すること。
- d 生の感受性を通して美の理想を実現すること。

問二 傍線部2「ああ、カタカナ語！」には、筆者のどのような気持が表れているか。次の中から適切でないものを一つ選べ。

- a 西欧語である「モラル」という言葉が、自分の伝えたいことを表現するとき自然に出てしまったことへのほじらい。
- b 西欧から入ってきた「モラル」という言葉が、日本語で書く自分の文章になじんでしまっていることへの驚き。
- c 日本民族の真剣な試みを述べる文脈にもかかわらず、軽薄なニュアンスを持つカタカナ語を使ってしまったことに対する嫌悪。
- d 日本人の生の感受性を問題にしているにもかかわらず、西欧人がつくりあげた概念用語を使ってしまったことに対するとまどい。

問三 傍線部3について、筆者はなぜ「厄介なことになる」と思ったのか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 悪の光景を描くことが芸術であると考え、日本人に感受されるモラルに悪がないとなれば、日本人には芸術が創造できないということになるから。

b 日本に西欧と同じような芸術が存在することを期待する筆者にとって、日常や社会の上で生きる人の姿を探求する日本の近代文学には悪がないと西欧に認定されてしまうと、西欧と同等になれないから。

c 日本の近代文学の努力を尊敬する筆者にとって、悪の感覚を持つことが芸術であるとする、日本近代文学の善へ向けての努力が報われないことになるから。

d 善無く日々を生きつつ長生きすることが日本人の抱くモラルであると考え、そのモラルを否定されることは、日本人としてのアイデンティティを揺さぶられることになるから。

問四 傍線部4「二二が四のようなもの」とは、ここではどういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a だれもが思いつくありきたりのこと。

b 原理としてあたりまえのこと。

c ひとつながりの秩序だったものであること。

d 当然生ずるものとして明白なこと。

問五 傍線部5「石盤の無視と否定」とは、どういうことか。わかりやすく説明せよ。

問六 傍線部6「悪はく美でなければならぬ」について、このように述べる筆者は、悪と美の関係をどのようなものと考えているか。わかりやすく説明せよ。

問七 波線部A・Bのカタカナを、それぞれ筆画正しい漢字に直せ。

二 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

おなじ兼盛かねもり、陸奥むちの国にて、閑院の三のみこの御むすこにありける人、黒塚といふ所にすみけり。そのむすめどもにおこせたりける。

A みちのくの安達が原の黒塚に鬼こもれりと聞くはまことか

といひたりけり。

かくて、「そのむすめをえむ」といひければ、親、「まだいと若くなむある。いまさるべからむ折にを」といひければ、京2にいくとて、山吹につけて、

B 花ざかりすぎもやすると蛙かはつなく井手の山吹うしろめたしも

といひけり。

かくて、名取の御湯みゆといふことを、恒忠つねただの君の妻よみたりけるといふなむ、この黒塚のあるじなりける。

C 大空の雲のかよひ路ぢ見てしかな鳥のみゆけばあとはかもなし

となむよみたりけるを兼盛のおほきみ聞きて、おなじ所を、

D しほがまの浦にはあまや絶えにけむなどすなどりの見ゆる時なき

となむよみける。

さて、この心かけしむすめ、こと男して、京にのぼりたりければ、聞きて、兼盛、「のぼりものしたまふなるを告げたまはせで」といひたりければ、「井

手の山吹うしろめたしも」といへりける文を、「これなむ陸奥の国のつと」とておこせたりければ、男、

E 年を経てぬれ5わたりつる衣手を今日の涙にくちやしぬらむ

といへりける。

『大和物語』

〔注〕おなじ兼盛：前段に続いて登場する平兼盛、元皇族

名取：宮城県にある温泉

しほがまの浦：宮城県松島湾の西南端に当たる浦

すなどり：漁をすること

問一 傍線部1「むすめ」は、A～Eの歌でどういう語で表されているか、次の中から適切なものを二つ選べ。

- a 鬼 b 山吹 c 黒塚 d あま e 蛙 f 雲

問二 傍線部2「京に行く」の主語は誰か、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a むすめ b 親 c 鬼 d 兼盛

問三 傍線部3「のぼりくたまはせで」はどういう意味か。わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部4「これなむ陸奥の国のつと」を現代語訳せよ。

問五 傍線部5「わたり」と同じ意味で用いられるものを次の中から二つ選べ。

- a 狭井河よ 雲立ちわたり 畝火山 木の葉さやぎぬ 風吹かむとす「古事記」
b けふよりは 今こむ年の 昨日をぞ いつしかとのみ まちわたるべき「古今和歌集」
c 空のけしき、くもりわたりたるに「枕草子」
d 梢も庭もめづらしく青みわたりたる卯月ばかりの曙「徒然草」
e 日頃、おこたり難くものせらるるを、やすからず嘆きわたりつるに「源氏物語」
f 紅葉のやうやう色づきわたりて「源氏物語」
g 雲のうすくわたれるが、にび色なるを「源氏物語」

問六 平安時代の物語で『大和物語』と同じジャンルに属するものを一つ挙げよ。

三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

初^メ備^{リシトキ}在^ニ小沛^{ルニおもハ}、不^ル意^ル曹公^X卒^ル至^ル。遑^{こう}遽^{きよシテ}棄^テ家^ヲ属^ニ、後^{ハシルけい}奔^ニ荊州^ニ。禅^ニ時^ニ年^ニ数^ニ歳^ニ、
竄^{にゲ}匿^{かくレ}随^ヒ人^{シテ}西^{ルニ}入^ニ漢^ニ中^ニ、¹為^ル人^ノ所^ニ売^ル。及^ビ建^ニ安^ニ十^ニ六^ニ年^ニ、関^ニ中^ニ破^シ乱^シ、扶^ノ風^ノ人^ノ劉^ノ
括^{ケテ}避^レ乱^ヲ入^ル漢^ニ中^ニ。買^ヒ得^テ禅^ヲ、問^{ヒテ}知^リ其^ノ良^ノ家^ノ子^{タルヲ}、遂^{ヒテ}養^ヒ為^レ子^ト。与^{タメニめトリ}娶^レ婦^ヲ、生^ム一^子。一^子。
^Z初^ト禅^ト与^レ備^フ相^ル失^ル時^ヲ、識^ル其^ノ父^ノ字^{ナルヲ}玄^ノ德^{ナルヲ}。比^ノ舍^ノ人^ノ有^リ二^姓簡^{ナル}者^一。及^ビ三^ノ備^{ルニ}得^{ルニ}益^ヲ州^一、而^ス
簡^ル為^ニ将^ト軍^ト。備^メ遣^メ三^{ヲシテ}簡^ヲ到^ニ漢^ニ中^ニ、舍^{ヤビス}都^ニ邸^ニ。禅^チ乃^チ詣^{いたリ}簡^ニ、簡^ニ相^ニ検^シ訊^シ、事^ナ皆^ス符^ス驗^ス。
簡^ビ喜^テ、以^テ語^ル張^ニ魯^ニ。魯^チ乃^チ洗^{シテ}沐^リ送^シ詣^ニ益^ニ州^一、備^チ乃^チ立^テ以^テ為^ス太^ト子^一。

〔『三国志』蜀書・後主伝、裴松之注〕

〔注〕○備―三国時代蜀の昭烈帝、劉備。字は玄德。○小沛―江蘇省沛県。○曹公―魏の武帝、曹操を指す。○遑遽―あわてふためく。○荊州―長江中流域の洞庭湖周辺の地域。劉備が曹操に敗れたのは建安五年(二〇〇)のこと。○禅―蜀の後主劉禅。劉備の子で、蜀の二代皇帝となった。○漢中―陝西省漢中市。○関中―函谷関から隴関の間に広がる地域。○扶風―関中にある地名。○比舍人―近所の人。隣の人。○都邸―都の官邸。○益州―今の四川省。○張魯―五斗米道の教主。当時、漢中を占拠していた。

問一 波線部 X 「卒」、Y 「遂」、Z 「初」の意味として、もっとも適切なものを次の中からそれぞれ一つ選べ。

- X a けつきよく b きゆうに c さいごに d とうとう
- Y a そのまま b あろうことか c とうとう d つまるところ
- Z a やつと b そのむかし c ようやく d そこで

問二 傍線部 1 「為人所売」を書き下し文にし、現代語訳せよ。

問三 傍線部 2 「符驗」とは、どういう意味か。簡潔に答えよ。

問四 傍線部 2 という結果に至るための最大の決め手になった事実を、本文中より書き抜く形で答えよ。ただし、訓点は不要。

問五 この文章に史実との矛盾があることを、ある歴史家は後主が「荊州に生まる」という事実、また建興元年（二二三）に後主が「帝位に即きしとき、年十七なり」という事実を挙げて指摘する。その史実と矛盾する点に該当するものを次の中から二つ選べ。

- a 曹操に敗れた劉備が数歳であった劉禪を棄てて逃亡したこと。
- b 劉禪が建安十六年（二一一）に人の養子になって自分の子供をもうけたこと。
- c 劉禪が劉備の子として建安十二年に生まれたこと。
- d 劉備が曹操の攻撃を受けた後に劉禪が生まれたこと。
- e 劉備が荊州に勢力を伸ばす以前に劉禪はまだ生まれていなかったこと。
- f 劉禪が劉備のもとで皇太子に取り立てられたこと。

《解答(例)》

一

- 問一 b 問二 c 問三 a 問四 d
問五 実際に生きて、ここに在ることから離れること。
問六 悪は、満ち足りた人間の生に「在らぬもの」を見出させるが故に美となると考えている。
問七 A 換言 B 核心

二

- 問一 a、b 問二 d
問三 京へおいでになっていると聞きましたが、どうして知らせて下さらないのですか、という意味。
問四 これが陸奥の国のおみやげです。
問五 b、e
問六 伊勢物語、平中物語など。

三

- 問一 X || b Y || a Z || b
問二 書き下し文 || 人の売る所と為る (人の為に売らる)
現代語訳 || ある人によって売られた
問三 劉禅の答えが全て事実とびったり合っていたという意味。
問四 識其父字玄徳
問五 a、b